

# 特別寄稿

(日頃「広報おのまち」をお読みの読者の方から、小野町の思い出について寄稿いただきました。)

## 『白線の中の思い出』

茨城県日立市

川 又 サヨ子さん (旧制郡司)

昭和25年飯豊中学校3年生の時、私はバレーボールの選手でした。

7人姉弟の母子家庭で、いつもなら1個の生卵を2人の姉妹で分け合って食べていましたが、その頃の母は、早朝練習に出かける私に茹で卵を持たせてくれました。

歩きながら食べて学校に着くと、山田博先生が、笑顔でみんなを迎えてくれました。

指導と部員の結束は元よりですが、運よく田村郡の決勝に迄進むことが出来ました。接戦の末、25対23で敗れましたが、精一ぱい戦った結果ですので、涙もなくからりとしたものでした。

コート内で考案した中衛センター二瓶シマ子さんのバックアタックの成功、また、高橋浪子さん(故人)のサウスポーからのサーブの威力は、相手コートを脅かしたものです。

応援に来てくれた郡司義隆先生が、私に汗をふくようにと白いガーゼのハンカチを差し出して下さったので、ホコリにまみれた顔をふいて洗わずにお返しした事が50余年脳裏に焼き付いていました。

3年前に郡司先生(現在96才)を訪ねて、ハンカチのお礼を述べ、洗わずに返した失礼を詫びて来た次第です。

また、この春の彼岸には、やさしく力強くご指導下さった亡き山田先生の家を訪ねて、お線香をあげさせて頂きました。

奥さんの京子先生と色々思い出話をし、博先生が新制中学最初の3年生担任の修学旅行の時、朝1番(6時台)の汽車に乗るのに、当日では大変だろうからと、先生の家の前に晩泊めて下さって出かけた話を聞いて、思いやりのある生徒に優しい先生だったんだなと、つくづく思いました。世の中皆貧しい時代でしたが、半世紀も過ぎると懐かしく、郷愁の念に駆られてペンを執りました。



(写真：お孫さんと)

### 平成17年度

### 少年の主張

### 作文コンクール開催

小野町青少年育成町民会議主催による、平成17年度少年の主張作文コンクール発表大会が7月13日小野中学校体育館で開催されました。この大会は、中学生が日ごろ考えていること、感じていることを発表することにより、社会の一員としての自覚を高めると共に、青少年の健全育成を図ることを目的に開かれています。

大会では、主催者挨拶に続き審査委員紹介のあと、1年生から順に発表が行なわれました。

発表者は、小野中・浮金中から各学年4名が選ばれ学校・家庭・社会等の身のまわりについて日頃考えていることをテーマに、それぞれの意見・体験を発表しました。

審査の結果は次のとおりです。(敬称略)

#### 最優秀賞

「私の命の価値」  
小野中3年 佐藤 美穂

#### 優秀賞

「私たちに今必要なこと」  
小野中3年 森川 実咲

「NO!もYES!も」

小野中2年 會田ほのか

「私の心に残る人」

浮金中2年 村上 貴大

「良い言葉の使い道」

小野中1年 香阪 四季

「不安から学んだこと」

小野中1年 吉田千奈美

#### 努力賞

「リサイクル社会を目指して」  
浮金中1年 藤井 理子

「あなたのたばこマナー」

小野中1年 吉田 育未

「愛犬ボブの死から学んだこと」

小野中2年 国分 麻貴

「戦争を受けとめて」

小野中2年 近野未沙紀

「今の自分と夢」

浮金中3年 藤井 遥香

「一人の人間として」

小野中3年 宗方 沙季

